
ゼロサムゲーム

ラン丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロサムゲーム

【Nコード】

N6517Z

【作者名】

ラン丸

【あらすじ】

「世界はゼロサムゲームなんだよ？」

そんな言葉を残して秋空に消えた彼女。

残されたメッセージ。

物言わぬ彼女。

ゼロサムゲームを巡って少年少女が駆け回る。

そんな感じ？

ブローグ ゲームの始まり

「神崎くん。ゼロサムゲームって知ってる？」

それは穏やかな秋風がそよぐ午後だった。そのとき僕はくたびれた肘掛け椅子に浅く腰掛け、昨日の自分の日記を読み返していたと思う。

彼女は少し短めに折られたスカートを翻し、窓のサッシに腰掛けた。「ゼロサムゲームっていうのはね……。この世の理のことなんだよ。誰もこのルールからは逃れられないんだ。分かるかい？ 神崎くん」

「危ないですよ部長。ここ3階なんですからね。」

彼女は楽しげに小さく笑った。平生彼女はこういったとき寂しげな表情をしているのが常だったが、その日は窓から差し込む夕日を背に浴びていて、彼女の表情はよく分からなかった

「神崎くんはそうやっていつも仏頂面で日記を読んでいるよね。私は本ってクライマックスを先に読んじゃうんだけど神崎くんは読み返してばかりだね。先が気になったりしない？」

脚を組みながら彼女はそう言った。僕はというと視界に映る白い美脚になぜだか少しムツとしていた。

「日記なんですから先を読んだって仕方ないですよ。あるのは未来だけです。」

「うーん。それは『白紙』ってことだよな。神崎くんは面白いことを言うなあ。」

秋風がそよぐ。日記のページが幾枚か捲れて、僕は図らずも未来を先取りした。白紙であるはずの未来には小さく……。

「神崎くん……。」

僕は彼女に視線を戻す。

「覚えておいて……。」

日は陰った。セピア色に彩られたその人はなんだか新鮮で、全く別

人のような気がして、僕は魅了されてしまった。

「世界はね……。」

小さな口が紡ぐ言葉が僕の脳髓を刺激する。声が出ない。

「やっぱりゼロサムゲームなんだよ？」

端正な顔が寂しげに微笑んだその瞬間。彼女の体はぐらりと揺れて、窓の向こうへと……。

……消えていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6517z/>

ゼロサムゲーム

2011年12月21日22時51分発行